



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2014年 No.4

(通巻35号)

7月6日発行



長い梅雨もようやく終わりに近づき、もうすぐ暑い夏がやってまいります。

皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。

今号は上半期の活動報告を中心にお届けいたします。

イベント参加他の活動に際し、皆様からいただいたご協力・ご支援に感謝申し上げます。

★★★★ イベント報告 ★★★★★

***あーすフェスタかながわ2014** <http://www.earthplaza.jp/earthfesta/program.html>

日時：2014年5月17日（土）18日（日）10：00～17：00

会場：あーすプラザ

主催：あーすフェスタかながわ2014実行委員会

みんなで育てる多文化共生をテーマに開かれたこのフェスタ。ステージではハワイアン、バリ舞踊、ベリーダンス、アボリジニの民族音楽・・・と、ほぼ通日コンサートやダンスが行われて多国の音が流れる中、大道芸人や着ぐるみのゆるキャラも練り歩き、子どもたちはクイズラリーに駆け回る、にぎやかなイベントとなりました。

今回が初参加となるバオバブの会は、“世界屋台村”と“ワールドバザール”のふたつのエリアに出店。屋台ではヤッサ（レモンの酸味が利いたチキンの煮込み）、マフェ（ピーナッツ味のビーフの煮込み）、ベニエ（西アフリカのドーナッツ）を、バザールではセネガルの布バッグ、アクセサリー、小物、絵本などを販売しました。コンサートの合間のPRタイムには、バッグやアクセサリーをこれでもかというほど全身に付けたディウフ会長がステージに登場し、大好評！ アフリカ系の出展者はほかにマラウィのハチミツを販売している団体だけだったこともあってか、バオバブの会の色鮮やかなアフリカの商品はとびきり目立ち、好調な売れ行きとなりました。

***かながわ湊フェスタ かながわく国際交流まつり**

日時：2014年5月25日（日）10：00～15：30

会場：横浜市沢渡中央公園及び横浜市民防災センター訓練室

主催：『よこはま水と緑の日』、『地元自治会』、『友・遊・まちづくりフォーラム』

バオバブの会は今回が2年ぶり2回目の参加。料理とバッグや絵本等を販売しました。この日のメニューもヤッサ、マフェ、ベニエとおなじみのものでしたが、今回は初の試みとして試食を行いました。地域色の濃いこのイベントでは、アフリカの料理を初めて食べるというお客さんがほとん

ど。恐る恐る手を出す年配のかた、興味津々で質問攻めしてくる若いお母さん、ここぞとばかりに何口も食べる子ども・・・と反応はさまざまでしたが、おいしいという声が多く聞かれました。

また、“世界のファッションショー”にも、ディウフ会長はじめ3名で出演。男性と女性のグランブ（直線断ちの大きな服）と女性のタイバス（体の線に沿ってぴったり仕立てたツーピース）を披露しました。

セネガルの豊かな食文化と服飾文化の、ほんの一端ですが、伝えることができました。

***第5回 GOSPEL FOR PEACE**

日時：2014年5月31日（土）16：00～20：30

会場：新宿文化センター

主催：NGOゴスペル広場 <http://www.gospelhiroba.com/html/index.html>

毎年恒例のこのチャリティーコンサートは、本場のアフリカ系アメリカ人シンガーや各地のゴスペルグループによるコンサートを楽しみながら、入場料や寄付や商品購入を通して国際協力も同時に行おうというもの。バオバブの会は、今回も、ロビーにて布バッグ、ポーチ、絵本、アクセサリなどを販売しました。コンサートの合間、多くのかたがたに購入していただき、募金も寄せられました。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ **第15回 「 援助 」**

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

（訳・文責 水野）

エチオピアのガラの人々は助言します。「飽きずに援助を続けよ。そうすれば、いつかお前のような人に出会うだろう」と。援助を続けていけば、自分と同じような心の広い人と出会い、今度は自分が助けてもらえるだろう、ということです。これは、ナイジェリアのヨルバの人々が、「兄弟注1を助けるのは貯金と同じ。困ったときに戻ってくる」と言うのと同じです。そして、最も寛大で楽天的な人—楽天主義は一步間違えば不合理なものとなりますが—は、コンゴ共和国のルルアの人々のように、「人助けは貯金。たとえ、助ける相手がろくでなしでも」と言うこともできるでしょう。

確かに、アフリカでは、人を助ける人は、神さま—又は運命—と助けられる人との間の仲介役に過ぎない、ということが広く信じられています。言い換えると、誰かに、その人のものと定められているものを、援助という形で届ける人を選ぶのは、神さま、又は運命だということなのです。そのため、援助を受けた人が感謝の言葉を述べたとき、しばしば、援助した人は次のような言葉を返します。「二人と一緒に神に感謝しよう」と。つまり、感謝されるべきなのは自分ではないし、感謝すべきなのも君だけではない。二人とも神さまに感謝しなければならない、ということです。この考え方は、セネガルのウォロフの人々が「ありがとう」に対して応える言葉—日本語では「どう

いたしまして」ですが一、**Nioo ko bokk** ニオコボックに通じるものがあります。この言葉は、文字通り訳すと、「それは我々みんなのもの」です。つまり、それは私たち二人のもので、私は君に君の分を渡しただけ、それを当然の権利として君が受け取った、だから、君は私にお礼を言う必要はない、ということです。この言葉は、少なくとも、援助を受けた人の気持ちを軽くします。

というのも、彼らは、援助を受けるのは心を重くする行為であり、援助するのと同じくらい勇気のいることだと思っているからです。コンゴのバソンジユの人々は、「与えるほうが、もらう方よりずっと幸せ」と言います。カメルーンのパムーンの人々も、同様に、「気持ちいいのは、人を助けるのを見られること」と言います。これらは、援助する側の虚栄心を煽るものではありません。

「恥ずかしく、辛く、不幸なのは、助けてもらうのを見られること」ということなのです。アフリカの人々は、援助されることは本当に辛い、と考えているのです。それなのに、多くの人々は、困っている人を見ると、後先考えず、相手の辛さも忘れ、助けようとするのですが。この点について、私は、ときどき、彼らも、援助に走る前にちょっと立ち止まって考えた方がいいのではないかと思います。助けたい、という強い気持ちがあっても、相手の気持ちや立場を考え、控えめに行動しようとする日本の人々のように。

もっとも、アフリカの人々の中にも、援助する前に深く考える人がいます。彼らは、とりわけ、何をあげるか、また、誰にあげるか、そして、あげるものの価値とあげる人のそれとが釣り合っているかを考えることが重要だと思っています。たくさんのものが必要なときに、ほんの少しの援助を与えることは、無駄であり不毛です。同様に、受け取る側とその使い方の能力を超えた、大きすぎる援助も望ましくないのです。カメルーンのパムーンの人々は、「動物が大きいと、その胃袋も大きい」と言い、プルの人々注2は、「象を殺すのは難しくない。難しいのは、それをひっくり返して皮を剥ぐこと注3」と言うのです。

とはいえ、誰もが、援助するものを自由に選べるわけではありません。大きな援助をするためには、相当の財力が必要です。セネガルのマリンケの人々は、「たくさんの涙は、大きな頭から流れる」と言います。援助したいという気持ちに不足はないとしても、財力には限りがあるのです。困惑の思いを、カメルーンのパムーンの人々はこう表現します。「私の心はそこにいる。だが、足がそこへ行かせない」と。できないことを無理してしようとするのは避けるべきです。コンゴ共和国のバラリの人々が、「サフ注4を採るか、採るのをやめて竿を倒すか」と言うように。今持っているものを全部あげてしまって、後で自分が困ることになるのか、今は我慢して、余裕をもって援助できる日のためにとっておくか、を選ばなければなりません。けれども、とても親しい友だち同士の場合なら、少しのものしかなくても、常に分け与えることができます。カメルーンのプルの人々が、「友だちからきたものは、決して軽んじるなかれ」と言うように、与えるものの大きさでなく、援助という行為の心が重要だからです。

さて、私はこういうことがらの専門家ではありませんので、ここですべてを語れるわけではありません。しかし、援助を与えること、受け取ること、そして、与えるものについて語った後で、援助の持続性についてひとことつけ加えずに終わることはできません。この点については、とりあえずの不足は充たすけれども、すぐにまた必要が生まれることを考えない援助よりも、遠く将来まで見通した、持続性のある援助の方が良いことは、議論の余地がないでしょう。バオバブの会が、大きな愛の心で、子どもたちに与えている援助のように。ツチの人々は言います。「あなたを愛してい

る人は、あなたに種子を与える」と。教育は、人々にとって、理想的な、最高の種子ではないでしょうか。

注1 兄弟：ここでは、「誰か他の人」を意味します。アフリカでは、しばしば、知らない人にも、「お兄さん」「お姉さん」と呼びかけます。

注2 皮を剥ぐ：「肉」といえば、スーパーでパックに入っているものや、冷蔵庫に入っているもの、お皿にのっているものしか知らない人、また、動物はどうやって殺され、どうやって調理されるまでになるのかを考えたことのない人には、皮を剥ぐことの難しさはわからないでしょう。私は、子どもの頃から、タバスキ（犠牲祭と訳される、セネガルのイスラム社会で最重要の祭日）の日、大人たちが、羊の喉を掻き切り、皮を剥ぎ、その肉を切り分けるのを手伝ってきました。ですから、象の皮を剥ぐことがどんなに大変かを、容易に想像することができます。

注3 プルの人々：北西はモーリタニアから東はカメルーンまで西アフリカの多くの国に分布する人々。遊牧民を起源とし、現在でも牧畜を営む人が多い。プルの他、フラニ、フラベなど、国や地域によって様々な呼称があります。独特な言語体系を有し、豊富な民話を継承しています。

注4 サフ：アフリカ原産、特にコンゴで多く見られる果物。木に、小さいイチジクか茄子のような実がなる。興味深いのは、生では食べられず、茹でて、固い皮をはぎ取ってから、中身を食べることです。薄緑の中身に甘味はなく、さわやかな酸味があります。また、中には、大きい種子があります。

★★★★ イベント速報 ★★★★★

★神奈川県最大の国際交流イベント「よこはま国際フェスタ2014」の開催が下記のように決定しました。

日時：2014年10月18日（土）19日（日）10：30～16：00

会場：象の鼻パーク

開催の詳細とバオバブの会の参加につきましては、次号でお知らせいたします。

★バオバブの会の自主イベント（隔年開催）「福引き2014」を開催します。

詳細は次号でお知らせしますので、どうぞお楽しみに！！

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215